

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（景観建築学）の学位を授与します。</p>		<p>本学科は、建築から自然との共生、景観映像情報技術までをも対象とする景観建築学の幅広い学びを、建築と公園、都市などの広域の住環境をともに対象とした建築・景観設計として統合する、スタジオ教育を中心とした教育課程を編成します。学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>	
A. 高い知性	<p>高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築・景観的事象を理解するための広範な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培っている。</p>	<p>共通教育科目は、人文科学・社会科学などの教養を学ぶ科目として位置づけられます。</p> <p>基礎教育科目は、初期演習と景観建築学を学ぶ上で基礎となる語学・数学・物理・生態学を学ぶ科目によって構成します。</p> <p>専門教育科目は、演習科目・講義科目・実習科目によって構成します。</p> <p>演習科目は、建築設計と景観設計を統合的に教育するスタジオ型の建築・景観設計教育であり、カリキュラムの中核をなします。4年後期には、卒業研究（卒業設計・卒業論文）に取り組みます。</p> <p>講義科目は、景観建築学にかかわる幅広い専門知識を学ぶ科目からなり、一級建築士受験資格の学歴要件に定められている建築学の全分野を網羅するだけでなく、公園や都市などの広域の住環境に関わる専門知識も学びます。</p> <p>実習科目は、演習科目・講義科目と連携した科目として、建築・景観設計において求められる緑化の知識や技術を学ぶ学内実習としての植物・緑化実習と、演習科目および講義科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、実践的な力を養う学外実習としての景観建築フィールドワークによって構成します。</p> <p>演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、講義科目においては、講義、小テスト、実習科目においては、建築物・庭園・町並み・工事現場の見学、教員の説明、植物・緑化実習、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。</p> <p>また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	<p>建築の三大要素である、「強」「用」「美」の視点から、またさらに広い「真」「善」「美」の視点から、建築や都市空間を総合的に理解するとともに、これら「真」「善」「美」を総合し真に人間的な住環境を創生する基礎的知識や能力を習得する上で必要な、高等学校卒業レベルの基礎学力を有し、かつ自然と共生する社会に貢献できる建築・景観設計技術者を目指そうとする者を受け入れます。具体的には入学前に、数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学Aおよび数学Bのうち数列・ベクトル）、物理（物理基礎・物理）だけでなく、生物、国語、英語、地理歴史、公民などの科目も幅広く学習していることを求めます。</p>	
	A-1			<p>語学や諸学の基礎学力の修得および自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。</p>
	A-2			<p>構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培っている。</p>
	A-3			<p>機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって最適な空間を構成する基礎的能力を培っている。</p>
A-4	<p>コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。</p>			
B. 善美な情操	<p>「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的・「歴史」的・「文化」的価値を理解し、自然との共生の視点から地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培っている。</p>	<p>また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>		
	B-1			<p>基礎的造形能力を培っている。</p>
B-2	<p>歴史・文化・国際社会・地球環境を理解する基礎的知識を修得し、価値観を培っている。</p>			
C. 高雅な徳性	<p>地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、自然との共生の視点を持って自律的に行動する「人格」を理解している。</p>			
	C			<p>社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。</p>
D. 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合	<p>「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培っている。</p>			
	D-1			<p>「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培っている。</p>
D-2	<p>様々な専門家・技術者との共同の重要性を理解している。</p>			